

「20 世紀東アジアにおける経済基盤の形成」 研究プロジェクト報告

1. 目的・活動内容

近年、植民地期台湾の経済成長については、日本と台湾の研究者交流＝学術的交流が深化することで、共通の基盤で議論することが可能となってきた。その結果、経済成長の実態だけでなく、「植民地」としての特性など、論点が深化しつつある。本研究プロジェクトでは、国際シンポジウムを通じて、日本人研究者と台湾人研究者との間の議論をさらに蓄積させ、外部資金獲得に向けた研究視角のブラッシュアップを目指した。

本研究プロジェクトでは、20 世紀におけるアジア地域の発展をミクロレベルで解明・把握するため、戦前－戦時－戦後を貫く視点・視角で、東アジア経済が大きく変貌した 20 世紀における日本企業のアジア進出過程を検討した。本研究の基本的な視座は、「20 世紀を通して、東アジアの経済的關係が、地域内の経済主体（企業・産業）の行動をどのように変えたのか」である。本年度は、さらに国立台北大学との国際シンポジウムを通じて、最新の台湾経済史研究の成果を吸収するとともに、台湾人研究者と問題意識の共有化を図った。

本研究プロジェクトにより、2018 年秋に須永徳武を研究代表者として、基板研究（C）一般「戦後台湾の経済基盤の構築－戦前の経験と戦後日本との関係－」（2019 年～ 21 年度）を申請した。さらに 2019 年 1 月 12 日（土）に池袋キャンパス 11 号館 A203 教室において、本学部と学部間国際学術交流協定を締結している国立台北大学人文学院と共催で国際シンポジウム「植民地台湾の産業と企業」を開催した。

本年度は、国立台北大学との国際シンポジウム開催に力を注いだため、本研究プロジェクトに関して、定例的な研究会の開催ができず、また資料調査も十二分に実施できなかった。来年度以降、学外に開かれたワークショップ形式により、研究会の活性化を図るとともに、将来に繋がる研究資源の蓄積を図っていきたい。

表 2018 年度「20 世紀東アジアにおける経済基盤の形成」研究会一覧

No.	項目	内容
1	開催日	2019 年 1 月 12 日（土）
	タイトル	国際シンポジウム「植民地台湾の産業と企業」
	講師（所属）	林 佩欣（国立台北大学） 陳 家豪（東京大学社会科学研究所） 林 采成（本学経済学部） 湊 照宏（本学経済学部） 蔡 龍保（国立台北大学歴史学系） 須永 徳武（本学経済学部）
	参加人数	35 人

2. 研究会概要

■国際シンポジウム

開催日：2019年1月12日（土）

会場：立教大学 池袋キャンパス 11号館 2階 A203

報告：「植民地台湾の産業と企業」

報告者：「日本統治期台湾の農家経済調査」林 佩欣（国立台北大学）

「日本統治期台湾の会社制度」陳 家豪（東京大学社会科学研究所）

「植民地期台湾の煙草専売事業」林 采成（本学経済学部）

「台湾拓殖会社の直営事業と分社化」湊 照宏（本学経済学部）

「日本統治時代における在台日系土建会社の経営」

蔡 龍保（国立台北大学歴史学系）

「植民地台湾進出日系企業の株主分析」須永 徳武（本学経済学部）

概要：台湾経済史研究においては、日本語能力の高い台湾人研究者と日本人研究者との学術的交流が蓄積されてきた。その過程で植民地期台湾の経済成長という点についてほぼ合意がなされ、経済成長の果実や弊害といった一般的論点に加え、民族間の不公平といった植民地的特性が検討されつつある。これらの点を解明するためには、植民地期台湾の産業と企業の実態について、台湾人研究者と日本人研究者との間の議論をさらに蓄積させる必要がある。

本シンポジウムでは、台湾で活躍する経済史研究者を招き、3つのセッションを設定して議論を行った。第1セッション「調査と制度」では、現地社会の基層であった農家に対する調査と、経済活動の担い手であった企業に関する制度について検討した。第2セッション「産業と政府」では、国策会社の事業展開と、植民地財政を支えた専売事業について議論した。第3セッション「企業」では、公共事業を担った土木建設会社の活動と、日系企業の株主について検討を加えた。

以上の議論を経て、総括討論では、植民地台湾の産業と企業の実態に関する論点を台湾人研究者と共有化し、今後の台湾経済史研究の方向性について活発な議論が交わされた。

3. 学内・学外研究費への申請状況

本プロジェクト研究をベースとして、下記の1件を申請した。

< 科学研究費・基盤研究 (C) >

- ・研究課題：戦後台湾の経済基盤の構築—戦前の経験と戦後日本との関係—
- ・研究代表者：須永 徳武
- ・研究期間：2019～2021年度
- ・申請金額：4,748千円（3年間）

担当：岡部桂史（本学経済学部教授）